

2コリント人への手紙

第2週目

1

II. 計画変更、悲しみの訪問、 厳しい手紙 (1:12-2:13)

2

パウロとコリントの人々との関係の年表

6. コリント（ステパノ）からの手紙を受け取り、クロエの人々からさらなるトラブルの知らせを受ける。
7. 彼は**返信として1コリント**を書く。テモテと共に手紙を送り、テモテが悪い知らせを持って戻ってくる。パウロに公に反抗する教会。
8. ひどい結果と共に**悲しい訪問**をする。**(2:1-4; 13:1)**
9. エペソから「**厳しい手紙**」を書く（紛失）。テトスとともに手紙を送り、彼の帰りを待つ。

3

10. テトスに会いに港（トロアス）に行く。航路が閉鎖。マケドニアに向かったパウロは、良い知らせを持ってきたテトスに出会う。パウロは喜んだが、すべてがうまくいったわけではなかった。
11. マケドニアから**2コリント**（4番目の手紙）を書く。
12. **3度目のコリント訪問**、3ヶ月滞在。コリントからローマの信徒への手紙を書く **(ローマ16:23)**。
13. 集めたお金と代表団と共にエルサレムへ出発。

4

パウロの計画

- もともとの計画:パウロはエルサレムに戻る際にコリントを訪れることになっていた (1コリント16)。
- パウロは、テモテから教会が反逆しているという知らせを受けると、当初の計画を変更し、コリントの信徒たちに面と向かって話すために思いがけない訪問をすることにした。これは「**悲しみの訪問**」として知られている。

5

- 第二の計画;「**悲しみの訪問**」の間、パウロはできるだけ早くコリントに戻り、その後エルサレムへの帰途にもう一回訪問することを約束する。
- パウロはエペソに戻ってから考えを改める。パウロは、もう一度訪れても良いことは何もないと考え、「**厳しい手紙**」、あるいはパウロが言うところの「涙の手紙」として知られる叱責の手紙を書いた。

彼の計画を変更することは、破滅的な結果を招くだろう。

6

敵が便乗してパウロの人格を中傷する

パウロに対する中傷:

- ・ 守れない約束をする。
- ・ 次々に約束する。
- ・ 「はい」と「いいえ」を同時に言う。
- ・ 肉的に決断している。
- ・ 彼の手紙の内容が理解できない。
- ・ 何度も不運に見舞われるのは霊的力の欠如。
- ・ パウロは聖霊に導かれていない。

それゆえパウロを非難する者たちは言った。「パウロを信用できないなら彼のメッセージも信用できない」

パウロは、この告発が「大使徒たち」による純粋な中傷であることを知っている。

彼はまた、コリントの人々に自分と自分のメッセージが信頼できるものであることを確信させなければならないことも知っている。

パウロは自分の権利を犠牲にした。

これこそ私たちの誇りです (1:12-2:14)

¹² 私たちがこの世の中で、特にあなたがたに対して、聖さと神から来る誠実さとをもって、人間的な知恵によらず、神の恵みによって行動していることは、私たちの良心のあかしするところであって、これこそ私たちの誇りです。¹³ 私たちは、あなたがたへの手紙で、あなたがたが読んで理解できること以外は何も書いていません。そして私は、あなたがたが十分に理解してくれることを望みます。¹⁴ あなたがたは、ある程度は、私たちを理解しているのですから、私たちの主イエスの日には、あなたがたが私たちの誇りであるように、私たちもあなたがたの誇りであるということを、さらに十分に理解してくださるよう望むのです。

解説

「誇り」が2コリントでは25回使われている。(英語の聖書)

- 私たちが自分自身で・・・誠実さを持って行動していることを証しする。
- 私たちは人間的に決断していない。(肉によって決断はしていない)。
- 私たちはあなたがたが理解できないことは書かない。
- 十分にあなたがたが理解してくれることを望む・・・

パウロの計画の変更 (1:15-22)

¹⁵ この確信をもって、私は次のような計画を立てました。まず初めにあなたがたのところへ行くことによって、あなたがたが恵みを二度受けられるようにしようとしたのです。

¹⁶ すなわち、あなたがたのところを通過してマケドニアに行き、そしてマケドニアから再びあなたがたのところへ帰り、あなたがたに送られてユダヤに行きたいと思ったのです。

¹⁷ そういうわけですから、この計画を立てた私が、どうして軽率でありえたでしょう。それとも、私の計画は人間的な計画であって、私にとっては、「しかり、しかり」は同時に、「否、否」なのでしょうか。

¹⁸ しかし、神の真実にかけて言いますが、あなたがたに対する私たちのことばは、「しかり」と言って、同時に「否」と言うようなものではありません。¹⁹ 私たち、すなわち、私とシルワノとテモテとが、あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「しかり」と同時に「否」であるような方ではありません。この方には「しかり」だけがあるのです。²⁰ 神の約束はことごとく、この方において「しかり」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰すのです。²¹ 私たちをあなたがたといっしょにキリストのうちに堅く保ち、私たちに油をそそがれた方は神です。²² 神はまた、確認の印を私たちに押し、保証として、御霊を私たちの心に与えてくださいました。

解説

私たちのメッセージは「はい」と「いいえ」ではない。
神の約束はキリストにあって「はい」である。
私たちはキリストの内にある;主を通して「アーメン」と言う。

パウロは神学的応答を加えた:

私たちをあなたがたといっしょにキリストのうちに堅く保ち、私たちに油をそそがれた方は神です。神はまた、確認の印を私たちに押し、保証として、御霊を私たちの心に与えてくださいました。(1:21-22)

悲しみの訪問 & 厳しい手紙(1:23-2:4)

²³ 私はこのいのちにかけ、神を証人にお呼びして言います。私がまだコリントへ行かないでいるのは、あなたがたに対する思いやりのためです。¹ そこで私は、あなたがたを悲しませることになるような訪問は二度とくり返すまいと決心したのです。² もし私があなたがたを悲しませているのなら、私が悲しませているその人以外に、だれが私を喜ばせてくれるでしょうか。³ あのような手紙を書いたのは、私が行くときには、私に喜びを与えてくれるはずの人たちから悲しみを与えられたくないからでした。それは、私の喜びがあなたがたすべての喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているからです。⁴ 私は大きな苦しみと心の嘆きから、涙ながらに、あなたがたに手紙を書きました。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、私があなたがたに対して抱いている、あふれるばかりの愛を知っていただきたいからでした。

解説

1:23 誓い—私はこのいのちにかけ、神を証人にお呼びして言います．．．

2:1 そこで私は、あなたがたを悲しませることになるような訪問は二度とくり返すまいと決心したのです。

2:3 あのような手紙を書いたのは、私が行くときには、私は喜ばせてもらいたいからです。

(首謀者がパウロへの悪質な個人攻撃を開始した。パウロの盟友さえ彼を擁護しなかった)

2:4 私は大きな苦しみと心の嘆きから、涙ながらに、あなたがたに手紙を書きました。私があなたがたに対して抱いている、あふれるばかりの愛を知っていただきたいからでした。

違反者を赦す(2:5-11)

⁵ もしある人が悲しみのもとになったとすれば、その人は、私を悲しませたというよりも、ある程度—というのはいき過ぎにならないためですが—あなたがた全部を悲しませたのです。⁶ その人にとっては、すでに多数の人から受けたあの処罰で十分ですから、⁷ あなたがたは、むしろ、その人を赦し、慰めてあげなさい。そうしないと、その人はあまりにも深い悲しみに押しつぶされてしまうかもしれません。⁸ そこで私は、その人に対する愛を確認することを、あなたがたに勧めます。¹⁰ もしあなたがたが人を赦すなら、私もその人を赦します。私が何かを赦したのなら、私の赦したことは、あなたがたのために、キリストの御前で赦したのです。¹¹ これは、私たちがサタンに欺かれないうためです。私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。

解説

見分けることと、懲戒。

多数派が違反者に与えた罰で十分だ。そして...

- ・ 過度の悲しみに打ちひしがれることのないよう、彼を赦し、慰める。
- ・ 彼に対するあなたの愛を確認する。
- ・ 赦しなさい。私たちがサタンに欺かれないために。私たちはサタンの策略を知らないわけではない。

パウロとテトスの再会 (2:12-13; 7:5-7)

私が、トロアスに行ったとき...兄弟テトスに会えなかったので、心に安らぎがなく、マケドニヤへ向かいました...(2:12-13)

⁵マケドニヤに着いたとき、私たちの身には少しの安らぎもなく、さまざまの苦しみに会って、外には戦い、うちには恐れがありました。

⁶しかし、気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことによって、私たちを慰めてくださいました。⁷ただテトスが来たことばかりでなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、私たちは慰められたのです。あなたがたが私を慕っていること、嘆き悲しんでいること、また私に対して熱意を持っていてくれることを知らされて、私はますます喜びにあふれました。(7:5-7)

解説

テトスは良い知らせを持ってきてくれた。コリントの信者の大多数が悔い改め、「あなたがたが私を慕っていること、嘆き悲しんでいること」で喜んだ。

パウロの喜びは彼が好んで使っていた比喻へと促す：
キリストによる凱旋

III. 新約の聖職者、パウロ (2:14-7:4)

キリストによる凱旋 (2:14-17)

¹⁴しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちをキリストによる凱旋の行列に加え、私たちを通してキリストを知る知識の香りを、いたるところで放ってくださいます。

¹⁵私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神に献げられた芳しいキリストの香りなのです。

¹⁶滅びる人々にとっては、死から出て死に至らせる香りであり、救われる人々にとっては、いのちから出ていのちに至らせる香りです。このような務めにふさわしい人は、いったいだれでしょうか。

21

解説

- ローマの凱進行進
- 裁判官と議員
- トランペットと奏楽者
- 戦利品：金、銀、大理石、美術品
- いけにえのための白い牛と祭司が香をゆらす。
- 捕虜
- 将軍
- 軍隊

ある人たちにとっては、死から出て死に至らせる香りであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせる香りです… (2:16) (レビ記参照)。

22

パウロと売る者たち

¹⁷ 私たちは、多くの人たちのように、神のことばに混ぜ物をして売ったりせず、誠実な者として、また神から遣わされた者として、神の御前でキリストにあって語るのです。

キリスト教勝利主義のジレンマ

23

キリストからの手紙 (3:1-3)

¹ 私たちはまたもや自分を推薦しようとしているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがたにあてた推薦状とか、あなたがたの推薦状とかが、私たちに必要なのでしょうか。

² 私たちの推薦状はあなたがたです。それは私たちの心にしるされていて、すべての人に知られ、また読まれているのです。

³ あなたがたが私たちの奉仕によるキリストの手紙であり、墨によってではなく、生ける神の御霊によって書かれ、石の板にではなく、人の心の板に書かれたものであることが明らかだからです。

24

解説

パウロのたとえ：心に書かれた手紙

推薦状

昔も今もよくあることだ：良い/役に立たない

「ある人たちのように私も手紙が必要なのではないでしょうか...」

- 私たちの手紙はあなたがたで、心にしるされている。
- あなたがたはキリストからの手紙--私たちの奉仕の結果。
- あなたがたは知られ、読まれている（良くも悪くも）
- あなたがたは生ける御霊によって書かれ、石の板に書かれたのでも、墨で書かれたのでもない。

神は召しを与え、整えるお方 (3:4-6)

⁴ 私たちはキリストによって、神の御前でこういう確信を持っています。

⁵ 何事かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというではありません。私たちの資格は神からのものです。

⁶ 神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者となる資格です。文字は殺し、御霊は生かすからです。。

解説

「私たちは自分で「福音に仕える者」になることができない。

- 必要条件リストを満たすことではなく、神によって任命される。
- 神は私たちを新しい契約に仕える能力を与え、それは文字に記された規則によるのではなく、命を与える御霊によるのである。--御霊によってキリストは死から復活されたからである。

「このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう」。
(2:16)

27

旧約と新約における解説

旧約は神の恵みの表現であり、神がご自身の民にどのような生き方を期待されているかを具体的に示したものだ。旧約は栄光に満ちたものであったが、その栄光は一時的なものであり、新約への足がかりとなるものであった。

エレミヤは預言した。「その日がやってくる。新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。」(エレミヤ31:31参照)

28

この預言は、イエスが弟子たちとの最後の晩餐で新約を結んだときに成就した。「イエスはパンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です」(ルカ22:19-20)。

主の晩餐は、「新しい契約」の発足、継続、そして完成を示すものである。

私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。(1コリント11:23-26)

旧約聖書でいけにえの血が罪を贖ったように、流され、聖霊の力によって死からよみがえったイエスの血は、私たちの罪を洗い流す。

福音の良き知らせは、神が選択されたこと。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」(ヨハネ14:6)

旧約は栄光に満ちたものだったが、一時的なものだった。新約はもっと栄光に満ち、永遠のもの。

新約のより大きな栄光 (3:7-18)

⁷ もし石に刻まれた文字による(旧約)務めがあって、⁸ まして、御霊の務めには、どれほどの栄光があることでしょう。(新約)

⁹ 罪に定める務めに栄光があるのなら、義とする務めには、なおさら、栄光があふれるのです。

¹⁰ そして、かつて栄光を受けたものは、この場合、さらにすぐれた栄光のゆえに、栄光のないものになっているからです。

¹¹ もし消え去るべきものにも栄光があったのなら、永続するものには、なおさら栄光があるはずです。

解説

「新しい」定義づけている。

パウロは、キリストにある新約の栄光を、モーセにある旧約の栄光と比較している。

古いものは、罪と死に定めることへ導き(3:7-9)、新しいものは、義といのちをもたらす (3:6, 9)。

新約のより大きな栄光 (3:7-18)(続き)

¹² このような望みを持っているので、私たちはきわめて大胆にふるまいます。¹³ そして、モーセが、消えうせるものの最後をイスラエルの人々に見せないように、顔におおいを掛けたようなことはしません。¹⁴ しかし、イスラエルの人々の思いは鈍くなったのです。というのは、今日に至るまで、古い契約が朗読されるときに、同じおおいが掛けられたままで、取りのけられてはいません。なぜなら、それはキリストによって取り除かれるものだからです。

¹⁶ しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。¹⁷ 主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。

¹⁸ 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

解説

「大使徒たち」の律法主義とは対照的に、新約は御霊によるものであり、御霊は主である。

イエスは今、御霊の力によってすべての心の中におられる。御霊が私たちの内におられることで、私たちはますますキリストに似た者に変えられていく。

弱さ、強さ、神の栄光 (4:1-6)

¹ こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、勇気を失うことなく、² 恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。³ それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々の場合に、おおいが掛かっているのです。

⁴ その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。⁵ 私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。⁶ 「光が、やみの中から輝き出よ」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。

解説

パウロは落胆しない。なぜなら ...

- 神から任命されたから。
- 彼には偉大なる務めが与えられていると意識しているから。
- 神が彼になしたことを忘れていない/ダマスコへの道での経験。
- 自分を待っている栄光を決して忘れない。

告発者たちは中傷を続ける。彼らは、パウロが私欲のために福音を歪曲するような卑怯であざむく方法を用いていると言う。

パウロの応答:

私は自分について宣べ伝えていない。

私はみなが理解できるように簡単に宣べ伝えている。

私はイエス・キリストを主として宣べ伝えている。 (「私を見るな。イエスを見なさい。」)

福音を拒む者たちは、この世の神によって盲目になっている。サタンはカモフラージュが得意だ。

私たちの弱さ、神の強さ (4:7-9)

⁷ 私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。⁸ 私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に与っていますが、行きづまることはありません。⁹ 迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

解説

弱さの中の力:「私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。」

パウロは宝の栄光と、その器のもろさや平凡さを対比させている。

- **宝:** 良い知らせの福音--キリストの御顔にある神の栄光を知る知識の光を与えるために、私たちの心を照らしてくださった方。
- **土の器:** 人間の身体は怪我をしたり、病気にかかりやすく、腐敗し死にゆくものである。
- **計り知れない神の力:** イエスを死からよみがえらせたお方は、私たちを引き上げ、私たちが無力さを克服する力を持っておられる。

パウロの4つの逆説

弱さ

四方八方から苦しめられる
 途方にくれる
 迫害される (追い回される)
 倒される

強さ

しかし、窮することはない
 しかし、行き詰まることはない
 しかし、見捨てられない
 しかし、滅ぼされない

- **力について語るわりには**、「大使徒」たちは人生の現実について語らない:すなわち苦しみ、悲しみ、痛み、心痛、病気、死、裁き(説明責任)である。
- 私たちが神の偉大さと力を認めるのは、私たちが本当はどれほど弱い存在であるかを確信するときである。
- **人間の弱さは、神の目的を妨げるものではない**。神の力は、私たちの弱さのうちに完全なものとされる。